

ガーデンシティふかや推進室[ふかや緑の王国・深谷市櫛引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551
花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

JAPAN BIRD HOUSE
第14回ジャパンバードハウスコンテスト2022

鳥の気持ちでハウジング

第13回 人間審査の部 最優秀賞作品 『天空のしろ』

鳥の視点で環境を考える



ジャパンバードハウスコンテストは、遊び心を大切に、鳥の視点で都市の環境を考え、人と人、人と自然とのコミュニケーションづくりを目指します。

【募集部門】

人間審査の部 デザインやアイデアを審査
鳥の審査の部 鳥が巣作り・子育てに使用したら審査に加点

【賞の内容】

最優秀賞 1点 副賞(クオカード)1万円

優秀賞 一般の部、小学生の部でそれぞれ1点 副賞(クオカード)5,000円
特別賞 数点 副賞(クオカード)3,000円
応募用紙 ふかや緑の王国のほか、市役所本庁舎総合案内、公民館で配布。市ホームページからも入手できます。
申し込み 6月1日(水)~9月30日(金)に、作品と応募用紙を直接または郵送でふかや緑の王国へ
※詳しくは問い合わせ先へ

ふかやオープンガーデン「ばらの庭・初夏の庭」

“一番きれいなバラを見ていただきたい”今年も特別公開として、オープンガーデン「ばらの庭&初夏の庭」を38軒が公開します。バラが一番きれいに咲くこの時期に、ぜひご覧ください!

とき 5月7日(土)・8日(日)・14日(土)・15日(日) 午前9時~午後4時
問い合わせ 深谷オープンガーデン花仲間 栗原さん ☎090-7183-3481

※自家用車でお越しの際は、交通ルールを守り、ご近所に迷惑の掛からないようお願いいたします。
※公開するお庭は、花仲間のホームページをご覧ください。



ふかや緑の王国 樹木・草花ガイドツアー参加者募集

ふかや緑の王国ボランティアの案内で、初夏の王国を歩いてみませんか。

とき 5月29日(日)午前10時~11時30分
ところ ふかや緑の王国 定員 先着20人(1回の申し込みで2人まで)
参加料 300円(王国植物花暦、綿苗1ポット付き)
申し込み 5月11日(水)午前8時30分から電話でふかや緑の王国へ



ふかや緑の王国 米づくり体験参加者募集

自分でお米を作って食べてみよう! 田植えから稲刈りまでの米づくりを体験!

とき 6月4日(土)午前9時から(田植え)
※田植え以降は4~5回作業を予定し、稲の生育状況により次回以降の日程をお知らせします。
ところ ふかや緑の王国 定員 先着20組(2人1組 小学生を含む家族)
参加料 500円(1組3合程度、収穫量により変更となります)
申し込み 5月18日(水)午前8時30分から電話でふかや緑の王国へ
※脱穀後の精米は11月のあかり展で配布します。



【お知らせ】今年の「ふかや緑の王国ホタル観賞会」は成虫の十分な発生が期待できないことから中止します。

『ガーデンシティふかや』『ふかや緑の王国』ホームページのほか、ツイッター(@garden5551)、『ふかや緑の王国』フェイスブックもご覧ください。



手話 de おはなし



手話に興味はあるけど難しそう…。そんなかたも、身近なあいさつからチャレンジしてみよう!
(手話協力 深谷市聴覚障害福祉協会)

すこしお待ちください



右手の親指と人さし指を近づける ※『少し』の意味



右手の親指以外の4指を揃え、指の背をあごの下にあてる ※『待つ』の意味



少し頭を下げ、顔の正面で斜めに構えた右手を少し前へ出す ※『お願い』の意味

【お知らせ】まごころ出張講座に「手話言語と障害の特性に応じたコミュニケーション」の講座を開講しました。市が制定した条例の内容を学んでみたい、手話に触れてみたい、というかたはお気軽にお申し込みください。

障害福祉課
☎571-1011
FAX574-6667

畠山重忠を知る



源平合戦と源義経の追放

寿永3年(1184年)、源平合戦最大といわれる一の谷の戦いが行われます。源氏は二手に分かれ、大手は範頼、搦手は義経が大将となりました。畠山重忠は「吾妻鑑」では大手に、「平家物語」「源平盛衰記」では搦手に属したと記されています。馬三日月を担いで斜面を降りた逸話は「源平盛衰記」にあるもので、重忠の優しさと力強さを表す話です。この戦いでは、熊谷直実が平敦盛を討ち取った他、深谷出身の岡部六弥太忠澄が平忠度を討ち取りました。忠澄は忠度の供養塔を、深谷市萱場の清心寺にたてました。その後、壇ノ浦の戦いにより

平氏は滅びました。「平家物語」で「盛者必衰」と表現される、朝廷の中での縁戚を介した危うい権力基盤だった平氏に対し、源氏は、歴史小説家の永井路子氏が「東国ヒラミット」と呼ぶ、頼朝を頂点とした御恩と奉公に基づく強固な主従関係による組織を朝廷の外に築いたことで、新しい世が生まれたといえます。しかし、平氏滅亡後、義経が後白河法皇から直接官位を受けたことをきっかけに、義経追放の悲劇が起きます。朝廷と二定の距離を保つことは、「東国ヒラミット」を維持するために必要でした。義経と同じく後白河法皇から官位を受けた他の武士も、頼朝から口汚くののしられていきます。義経の愛妾静御前も捕らえられ、頼朝の前で舞を舞うことになった際には、重忠が銅拍子を打って伴奏しました。重忠は、頼朝が佐々木高綱に与えた「生座」という名馬の嘶きを、大軍勢の中で聞き分けたという逸話もあります。重忠が音楽の才とともに非常に耳が良く、絶対音感が優れていたことがうかがえます。